

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果(やまと館)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200810		
法人名	有限会社エヌ・ジェイ・エヌ共生		
事業所名	グループホーム蔵		
所在地	札幌市北区新川2条10丁目1-35		
自己評価作成日	令和5年10月31日	評価結果市町村受理日	令和5年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/U17/index.php?action_kouhyou_detail_U22_kani=true&JigvosvoCd=0170200810-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 5年 12月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◇やまと館は、「笑顔引き出す声掛けと心安らぐ環境づくり」をモットーにしている。
 ◇各ユニットで《気を付けたいこと》の項目を掲げ(例・上から目線の声かけになっていないか自分の言葉を振り返る、など)、利用者様の尊厳を大切にするケアに努めている。
 ◇下肢筋力の維持向上に努め、毎日の下肢運動は日課となっている。夏季は、散歩などで外に出る事を優先している。
 ◇花見、夏祭り、盆踊り、花火大会、運動会、紅葉狩り、クリスマス会等、季節を感じられる行事等を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商業施設に程近い距離の住宅地に位置する開設22年目を迎えた2ユニットの事業所です。広いエクステリアの環境を利用者支援に有効活用しており、家族を招待しての夏祭りや畑作業も同法人事業所の蔵発寒の利用者と一緒に賑やかにしています。運営推進会議は通則報告の他、認知症の理解を深める学習会を行い事例を交えての意見交換や歯科医師を講師に招き口腔フレイルの講義を受けるなど、教育研修機能を付加しています。防災対策では年間計画を立て、ほぼ毎月、様々な想定下で避難訓練等を実施し、札幌市防火管理者協会から3年連続で優良事業所の表彰を受けています。五感刺激となる行事的外出事は元より、利用者は銀行の用事に同伴したり、コンビニエンスストアやスーパーへ食べたい物や欲しい物を購入する際も、職員のサポートを受けお金を所持したり使うことができるなど、地域密着型サービスである当たり前の暮らしを個々の状態に応じ支援しています。以前の暮らしをアセスメントし、習字や絵画、楽譜を見ながら鍵盤演奏をするなど培ってきた力を引き出す介護にも取り組んでいます。開設時より看取り支援に尽力し、利用者の終の住処として事業所力を発揮しています。職員は利用者の生活の質の向上に意識を向け、気をつけたい事を自ら掲げて目標に定めて日々振り返りを行うなど介護支援の質を高めています。「認知症高齢者がその人らしく生きるためには」の想いを力の限り「蔵」に注ぎ込んでいる事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果(やまと館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日に、当日出勤の職員で、理念の唱和を行っている。又、ユニットごとに決めている「気をつけたいこと」の項目の一つを週の目標とし、毎日唱和している。理念と共に実践に努めている。	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ運営理念を標榜し、パンフレットへの明示と事業所内要所へ掲示しています。ユニットごとに「気をつけたいこと」を取り上げて目標に掲げ、これらも意識した支援に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響から、思うように地域の行事に参加することは出来ていないが、町内会からお花を頂いたり、お祭りの神輿を施設前で止まらせて見せてくれたり、日常的に地域の方々とは挨拶を交わすなど交流している。	町内会に加入し、町内会便りが届いたり女性部からはクリスマスメッセージカードが、中学校支援学級からも町内会を通じて飾り物のプレゼントが届けられています。利用者は職員のサポートを受け近隣のコンビニエンスストアやスーパーにも気軽に出入りしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の理解を深められるよう、わかりやすく実際にある事例を交えて話し合った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年から対面での会議を開始し、利用者状況、行事や事故の報告を行い、ご意見を頂いている。他施設の面会状況等の情報も頂き、方針を決める際の参考にさせて頂いている。	運営推進会議は参集にて開催し多数の家族の出席も得ています。通常の報告の他、歯科医師を講師に招いた「口腔フレイル」や、「認知症の理解を深める」等の学習会も交えるなど、教育研修機能を付加しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域包括支援センター職員とは、ご意見を頂き、協力関係を築くよう努めている。	市や区の担当部署とは、適正な運営の維持や利用者、家族の利益に資するよう協働関係を築いています。地域包括支援センターからも地域の情報を得たり、保健所の指導等を得て、感染症に係る利用者の健康管理支援に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月カンファレンスの後に、様々な角度から意見交換を行っている。研修も行い、禁止となる具体的な行為などについても学んでいる。	身体拘束廃止に係る指針を定め、系列事業所と合同で身体拘束廃止委員会を定期開催しています。内部研修では、高齢者虐待防止、身体拘束適正化について学習し、職員は受講後に研修報告書を提出しています。利用者・家族の同意を得て夜間のみ緊急やむを得ない身体拘束に係る利用者がいますが行動制限するためのものとはなっていません。毎月、経過観察・再検討を行っています。玄関は夜間のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法について、研修を受け、各ユニットで話し合い、環境作りを意識している。虐待が見過ごされることが無いよう、グレーゾーンから見直し、カンファレンス等で話し合う場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修をする機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の生活歴等を聞きながら、わかりやすく説明するよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族通信を通し、運営に関する事柄を伝え、意見や要望を頂き、反映できるよう努めている。	外出先で「コーヒーを飲んで帰ろう」「買い物に行きたい」など利用者から率直に思いを伝えてもらっており、その都度、希望に応えたり感染症対策で難しい場合は代替えを提示して対応しています。家族からも外食に連れて行きたいとの意見も出ていますが、現状の対応方針を伝えて理解を得られるようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任、副主任会議、カンファレンス時、又、職員が参加する学びの会の際に、意見を聞く場を設けている。	職員が集まる各種会議を設け、職員から意見等を得ています。年度の事業計画の立案や反省も職員意見が反映されています。職員が参画する学びの会は少人数ごとに催され、職員の思い等も細かく聞き取れる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者等から職員の実績の報告を受けており、向上心を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修等は、コロナ禍の為、前半は書面研修、後半からは対面で研修を行っている。学んだ事の報告書、アンケート等を提出してもらい、個々の思いを知るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍の為、交流までには至っていないが、ネットワークづくりには取り組んでいる。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時は、入居前の情報を元に、寄り添い、傾聴、同調することで、安心して心配事を言える環境作りに努めている。		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活の情報把握に努めている。入居後は、なるべく頻回に、LINEなどで写真や動画をお送りし、ご本人の様子を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談の段階で、ご家族が困っていたことなどをお聞きするようになっている。介護の程度のみならず、金銭面や親族、友人関係等、情報の収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを大切にし、何を考えて行動しているか模索し相互関係を構築できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にし、希望に応じ、面会や外出に対応している。職員と家族で本人を支え、家族の協力を得たり、相談や意見を話し合える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナも5類になり、制限付きではあるものの、家族や親戚、友人等との面会や外出に対応している。また、電話や手紙等で関係継続の支援を行っている。	面会は居室で対応し和やかな時間を持てるようにしています。家族以外にも信教で昔馴染みであった方々も訪れています。家族宅への一時帰宅や外出支援の道中に自宅前を通ることもあります。手紙や電話は希望に応じて対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や、介護度を考慮し、テーブル席を決めている事で、話も弾み、孤立を防いでいる。時には間に入り、トラブルを回避している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のフォローは特にないが、相談等があれば、いつでも対応できるような体制でいる。退去されたご家族とも今でも関係性が保たれている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人カンファレンスには本人にも出席して頂き、思いや希望などを聞いている。センター方式のB-3シートを活用して、現時点での利用者の思いや意向を出来る限り把握し、話し合いを行っている。	表出が難しい場合は、利用者の様子から可能な限り本意を汲み取り、その場面ごとにどのように過ごしたいかを見極めています。利用者本人がカンファレンスに同席することもあり、思いや希望を聞き取り本人の希望となる暮らし方をアセスメントしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に本人の生活歴等をセンター方式シートに記入頂き、カンファレンス等で都度見返し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人一人と会話し、スキンシップを取り、状況変化を把握している。変化等は記録し、職員で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、ユニット毎でカンファレンスを行っている。半年に1度の個人カンファレンスでは、本人も参加して頂き、意見を出し合い、介護計画に活かしている。ご家族には変化を伝えるよう努め、ご意見を頂いている。	毎月、利用者全員のカンファレンスを実施し、3か月ごとに職員全員でモニタリングを行っています。カンファレンスに参加する利用者もいて、したい暮らしを伝え、家族意見も反映させています。総合カンファレンス会議では前回のケアプラン実施による結果も情報連携し、今後のケア内容の精度を高め、現状に即した介護計画の策定に向けています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護日誌(タブレット)に記録し、生活状況や身体状況、気づき、ケアの実践等スタッフ全員で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的カンファレンス以外で、毎朝のミーティング時に必要な対応を検討し、柔軟に支援が出来るよう努めている。ご家族から協力を得ることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響により、地域住人によるマジックや歌などのボランティアの受け入れは中止している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は月2回受けており、体調変化時には、24時間対応して頂いている。必要に応じ、直接ご家族と医師が話す機会を柔軟に持てるよう努めている。	協力医療機関による内科と歯科の往診や24時間相談できる医療体制を整備し、専門他科受診も基本事業所対応ですが、家族の協力も得ることがあります。医療連携による訪問看護の他に、看護師を職員配置し、健康管理に係る医療活用支援と健康面のケアマネジメントの充実に向けています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が週2回勤務し、職員からの情報の共有、相談を行っている。看護師から訪問診療、看護への相談など適切に受診や看護を受けられるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時等には、必要な情報を交換し、ADLの低下や混乱防止に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	体調や生活の変化に合わせ、終末期の過ごし方について、医師、家族、ホームとの間で話し合いの場を作り、チームで記録を共有し、支援に取り組んでいる。	利用契約時に「重度化に対応した医療連携体制の指針」と「急変時対応希望書」を説明し同意を得ています。医師の判断に基づき、今後の方針を関係者間で合議し、看取り支援に移行する場合は、「看取りケアについての説明及び同意の内容」を取り交わしています。利用者、家族に寄り添った看取り支援に尽力しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災避難訓練時等に、職員全員が心肺蘇生、応急手当の訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害等の訓練を様々な場面を想定してほぼ毎月行っている。地震ではテーブルの下に隠れる、水害では2階への階段を上る訓練を行っている。また設備業者の協力の下、ベルを鳴らし臨場感のある訓練と水消火器を使用し消火訓練も行っている。	火災想定は元より、地震や水害等を含め日中・夜間・明け方の時間帯を想定した避難訓練を、年間計画を立ててほぼ毎月実施しています。8月には避難訓練の様子を地域の方がモニターする機会も設定しました。自然災害発生時における業務継続計画の策定に至っています。	6月、指定収容避難場所への移動訓練を行っています。避難生活を送る場合の想定される課題等の抽出や対策について、運営推進会議内で協議や情報共有に取り組むのも有効であると考えられますので、その実施に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、声掛けを行っている。ユニットの目標として「上から目線の声掛けになっていないか」「スタッフ同士注意し合える環境づくり」の項目を掲げ、意識している。	『声かけや話をするときには、利用者様の視界に入ってから(正面から)、目線、声のトーン、大きさを意識する』など、ユニットごとに複数項目の気をつけたいことを掲げ、毎月の会議での振り返りや、学びの会でもこれらの内容を共有し意識づけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で、本人の思いや希望を引き出せるような話題作りなどに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	午前はラジオ体操、ステップボード運動、立ち上がりや歩行運動、歌、ドリル等を行っている。午後は散歩やレクを出来る時に行っているが、強制ではなく利用者の思いを優先している。外に出たい人には、出来るだけその都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や思いを汲み取り、訪問理美容で散髪を行っている。外出時、行事時には服装等で気分が上がるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、出来るだけ希望に沿って食事の提供を行っている。調理の下ごしらえ、盛り付け、食器洗い、拭き等が出来る利用者には、毎日行って頂いている。配膳下膳も歩行良好な利用者には行って頂いている。	事業所で作成した通常の献立の他に、希望の食事や旬の食材、畑で採れた野菜、行事食や誕生日食を其々に加えて楽しめるメニューで提供しています。戸外での焼肉や縁日メニュー、寿司天蕎麦セットの取り寄せや刺身御膳など食欲が増すようにしています。ホットプレートの食事や手作りおやつも人気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食、お粥、トロミ付け、栄養補助食品等を個々の嚥下状態や栄養状態に合わせて提供している。毎食後、摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯は毎日洗浄剤を使用し、歯ブラシは定期的に交換し、口腔ケアスポンジは毎日交換している。うがいが出来ない利用者は洗口液を使用している。また、定期的に訪問歯科で診てもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の間隔を見て羞恥心に配慮しながらトイレ誘導を行っている。定期的な声掛け等で、失敗を減らし、排泄の自立支援を行っている。	利用開始時に排泄の一連の流れの見極めや、その後も本人の出来る力を引き出したり、個々の状態に合わせた排泄支援です。排泄状況はケア記録に記し、排泄物に変化がある際は、尿色の写真等を残して医師に意見を仰ぐなどもして健康管理に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日起床後に飲むヨーグルト等の乳酸菌飲料を提供している。料理にオリーブオイルを使用したり、個別に牛乳を提供し、便秘予防に努めている。毎日ラジオ体操やストレッチ等で身体を動かす機会を作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の日程で行っているが、個々のタイミングや希望に合わせて行っている。羞恥心に配慮し、必要があれば同性スタッフが介助出来るよう努めている。	週2回の入浴日は予め日程を決めていますが、利用者が前向きに入浴ができるように事前にコミュニケーションを取るなどし、声かけから着替えの準備、浴後のドライヤーまで同じ職員が対応しています。入浴中は楽しい話や入浴剤を選んでもらったり、好みの湯温、同性介助も適宜対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大切にし、昼寝をしたり、希望や状況に応じて休んで頂いている。就寝は出来るだけ、お好きな時間に寝て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイル、薬情報ファイル、タブレット端末等で薬の目的、副作用等の確認が出来るようにしている。薬の変更があった場合は、介護日誌に記入し周知している。薬の作用や副作用による症状と思われる事も情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならない程度の家事仕事(食器洗い、拭き、洗濯物干し、畳み等)を役割として行っている。布巾縫いや趣味の編み物なども提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は町内を散歩している。春は花見、秋は紅葉を楽しんでいる。コロナ禍では、外出がままならなかったが、今年は円山動物園に出かけ楽しんでいる。	近隣のコンビニエンスストアや、スーパーに出かけて希望する品や好みの物を買に出かけています。周辺の散歩や川辺の緑道を散歩したり、円山動物園、百合が原公園、厚田のにしん街道にドライブで出かけるなど、五感刺激となる外出支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっているお小遣いから必要な分を手渡し、隣のコンビニやスーパー等に一緒に出掛け、好みのおやつを買ったり、趣味事の道具を買ったり出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話を掛けたい希望がある時は日中であればすぐに対応できるように支援している。携帯電話を所持している利用者は、本人の了解を得て、夜間のみ預かっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はテーブルの配置にも気を配り、広いスペースを確保し、車イスを安全に使用できるようにしている。定期的な換気を行い、快適な室温に努めている。壁には季節を感じられる装飾を一年を通して行っている。	居間及び食堂は明るく家庭的な雰囲気があり、水回りも清潔を心がけています。多肉植物や季節の飾り、利用者の作品類を掲示しています。ダイニングコーナーの他にソファコーナーや畳椅子を配置して、利用者其々が好きな場所で過ごせる空間を、動線に配慮しつつ整えています。共用空間にエアコンを設備し、浴室の脱衣所には床暖とヒーターを設置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを置き、自由にテレビを視聴できるようにしている。気の合った利用者同士の談話の場所にもなっている。また、居間の片隅には畳椅子も配置し、個別に思いを聞くことが出来るスペースとなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望に配慮しながら、居室には、タンス等の家具や、使い慣れた馴染みの物を置いたり、家族の写真、手紙等をボードに貼ったりし、居心地の良い部屋作りに努めている。	居室入り口に利用者が自室と分かる工夫を施し、室内には照明器具、クローゼット、暖房の設備と介護用ベッドのある居室がほとんどです。使い慣れた調度品や仏壇、油絵やエレクトーン、DVDなど、多彩な品々が持ち込まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口は顔写真や名札で分かりやすく表示している。写真を好まない利用者には、ドアにスカーフを付けるなど、希望に合わせている。トイレの場所も遠くからも見えやすいように表示している。		